DEBUT 首長

足利市長　和泉　聡氏

企業誘致に向け新制度 若手集め観光の目玉発掘

いずみ・さとし　1963年足利市生まれ。早大政経卒。朝日新聞社に入社し、支局や社会部などに勤務。米ハーバード大留学も経験した。その後、社会部筆頭次長を経て、宇都宮総局長に就任。今年１月に朝日新聞社を退社し、足利市長選に立候補した。49歳。

足利市　栃木県南部にあり、人口15万1000人強。古くから織物の街として知られ、現在も工業の事業所数が人口50万人の宇都宮市を上回り、県内トップ。

――４月の市長選では現職を破っての初当選となった。

若い人たちはリーダーが代わっても何も変わらないというが、実際には、人脈などいろんなことが変わってくる。今はまだ（前職の新聞記者風にいうなら）「新市長の政治的基盤は固まっていない」という状況だろうが、対議会を含めてこれが固まってくれば、少しずつ推進力がついて、やりたいことをどんどんやれるようになる。市民のみなさんにも変わったという実感を持ってもらえるだろう。

――産業の活性化を大きな目標に掲げている。

足利はもともと製造業の街。やはりモノ作りの企業に来てもらいたい。少しクラシカルな手法かもしれないが、新たな企業団地の造成を目指している。市だけでは実現は難しいから県の協力を得なければならないが、（以前の市政に比べ）県が非常に協力的に動いてくれている。市の職員たちも一様に驚いている。

新たな企業誘致策も導入したいと考えている。今までの企業支援策は足利市内に土地を買ってくれる企業に限定していたが、これを倉庫や工場を賃借しようという企業にも対象を広げる制度を秋にはスタートさせたいと思っている。早速、それに魅力を感じて足利進出を検討してくれる企業も出始めている。

――市内の鑁阿寺（ばんなじ）が新たに国宝に指定されるなど観光産業にとっても好機だ。

鑁阿寺はもうひとつの観光の目玉である足利学校に隣接しており、これを生かした街づくりをしたいと思っている。ただ、足利学校や鑁阿寺では（同じ栃木県にある）日光東照宮に勝てないだろう。やはり足利学校・鑁阿寺とクルマの両輪になるようなものを新たに起こしていく必要があると思う。

すでに部署に関係なく、市役所につとめる元気のいい若者を集めてアイデア出しをさせている。宇都宮のギョーザのように「○○の街・足利」といわれるようなものを作り出したい。その候補の１つはやはり食べ物だろう。もう１つは夜の街をにぎやかにする仕掛けを考えたい。そうすれば宿泊客も多くなる。

少しでも早く実現させるためには、一刻も早くプランをぶち上げ、自分自身も周りも追い込む必要があると思っている。

――中心市街地の活性化も急務だとしている。

１つの仕掛けとして、歩行者天国を実施したい。一過性のイベントではなく、最初は月に１回程度から始め、できれば毎週やれるような状態に持って行きたい。実現に向け、警察の関係者にもご協力をお願いしたいと考えている。

ただ、どんな施策にしても、市民が参加する形にしなければ、根付いていかないだろう。市民参加の実現が大きなポイントだ。

（聞き手は
宇都宮支局長　**小口　道徳**）

禁複製・無断転載